

# 住宅火災を防ぐため

# 10のポイントを確認し「命」を守ろう

これからの季節は空気が乾燥し、火災が発生しやすくなります。タバコの不始末や暖房器具の使い方など、火災の原因はさまざまですが、近年では電気器具からの火災も多数発生しています。そこで、総務省消防庁から住宅火災を防ぐため、自宅におけるチェックポイントの見直しが行われました。

11月9日～15日は秋季全国火災予防運動期間  
「おうち時間 家族で点検 火の始末」  
(2021年度全国統一防火標語)

## 住宅火災における死者数の7割以上が高齢者です

毎年、全国で900人前後の人が住宅火災で亡くなっています。そのうちの約7割が65歳以上の高齢者で、今後、さらなる高齢化が進むことが見込まれる中で、住宅火災による高齢者の死者数の割合は増加していくことが予想されます。このことから、平成12年に総務省消防庁が作成した「住宅防火 いのちを守る 7つのポイント」が、高齢者の生活実態等を踏まえ、10のポイントへ見直されました。

右記を参考に、火災の原因となる危険が無いか、今一度確認してください。

### 在宅酸素療法の火器の取扱いにご注意を

在宅酸素療法に使用する酸素濃縮装置や酸素ボンベなどは、使用中に火気を近づけると火災が発生する場合があります。

新型コロナウイルスに感染した場合、在宅酸素療法で治療を行う可能性があります。酸素吸入の際は、以下の点に注意してください。

#### ～患者やその家族等への注意事項～

- ・高濃度の酸素を吸入中に、タバコ等の火気を近づけない。チューブや衣服等に引火し、重度の火傷や住宅の火災の原因となります。
- ・酸素濃縮装置等の使用中は、装置の周囲2m以内には、火気を置かない。
- ・火気の取扱いに注意し、取扱説明書どおりに正しく使用すれば、火災になることはありませんので、医師の指示どおりに酸素を吸入してください。

お問い合わせは  
予防課 ☎459-7803へ

## 住宅防火

### いのちを守る 10のポイント

**習慣 1** ✗

寝たばこは絶対にしない、させないようにする



**習慣 2** ✗

ストーブの周りに燃えやすいものを置かない。給油時は必ず火を消す



**ストーブを使う時には火災に注意**

**習慣 3** ✗

こんろから離れる時は、必ず火を消す。周辺に燃えやすいものは置かない



**習慣 4** ✗

コンセントは、ほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く



**対策 1**

ストーブやこんろ等は、自動で火を止めてくれる安全装置がついているものを使用する



**対策 2**

火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する

正常な場合は？

正常をお知らせするメッセージ  
または火災警報音が鳴ります。

ピーピーピー  
ボタンを押す

ピーピーピー  
ひもを引く

火事です  
ひもを引く

注) 警報音はメーカーや製品により異なります。

**対策 3**

部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは防災品を使用する

**防災品を使用**



**防災**

**対策 4**

初期消火の限界は天井に火が届くまでです。火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認する



**対策 5**

お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく



**対策 6**

防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う



広告